
真実の仮面

会津遊一

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

真実の仮面

【Nコード】

N6189H

【作者名】

会津遊一

【あらすじ】

しがない古美術商の私が、怪しい代物を購入した話。

私は、しがない古美術商である。

今日は隠れた一品を探しに、古物商許可が下りていないノミ市に参加していた。

そこで、変な男に声をかけられた。

「ちよいと、その格好いい旦那、この仮面を買いませんか？」

「私か？ …… 私は自分の守備範囲の物しか買い取らないよ」

無論、これは嘘である。

古物を扱う者に本音を明かしていたのでは、値段交渉の時に足元を見られるに決まっている。

「まあ、そう言わないでくださいよ。特に買っていたきたい。この真実の仮面は、旦那も欲しがる、とっておきの秘密があるんですから」

「どんな？」

「それは言えません。買ってからのお楽しみって奴ですよ。因みに、納得していただけないようでしたら、お代はお返しします」

「ふむ、それは凄い自信だな」

少し悩んだが、私は買い取ることにした。

いざとなったら返品できるのだから、ここは一つ、後学のために購入するのも面白いかもしれないと思ったのだ。

帰宅後、私はいそいそと居間に入った。

そこには既に妻が陣取っており、テレビの前に無然と座っていた。

私が帰って来ている事に気が付いているが、此方を見向きもしない。以前はこんな関係ではなかった。

ただ、少し借金を抱えた時から、愛が歪んでしまったらしい。

何とか、修復したいという思いはある。

ただ、直ぐにどうこうできる話でも無いので、とりあえず私はバッグから仮面を取り出したのだった。

そして、裏返して確認するも、それは何の変哲も無い木彫り作りだった事が解ったのだ。

変わっていると言えば、黒い汚れと細かい陰影がビッシリと掘られている事ぐらいか。

しかし、これぐらいの細工など、有り触れていて珍しい物ではない。

もしかしたら、これはあの男に騙されたかなと思っていると、妻に話しかけられたのである。

「アンタ、また誰かに偽物掴まされたのかい？」

「五月蠅い、まだそうだと決まった訳じゃない」

「だって、アンタ渋い顔をしてたじゃないか。そう言う時は、偽物だと相場が決まってるんだよ。大方、褒められて、調子に乗ったんだね」

私はその言葉に力チンときた。

「何だと！ 豚みたいに、食っちゃ寝しているお前には言われたくはない！」

「な、なんですって！」

妻も頭に來たのか、顔を赤らめて殴りかかってきたのである。

咄嗟のことに、つい私は仮面をかぶって身を構えてしまった。

しかし、次の瞬間、もし壊れてしまつては返品することも出来なくなることを思い出し、私は慌てて仮面を外したのである。

そこで妻は怒りが治まった。

いや、突然、腹を抱えて笑い出したのだ。

「あはははは、アンタ、粹なことをするじゃないか」

私が呆然としていると、笑顔の妻から手鏡を渡された。

すると、あの男が言っていた仮面の秘密という奴に気が付いたのである。

私の顔には、ススで文字が刻まれていた。

「ごめんなさい、愛しているよ」と。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6189h/>

真実の仮面

2011年1月4日03時02分発行